

学生自主活動ルームにおける学生支援の実態と今後の課題

—平成 22 年度における取り組み—

阿 濱 志 保 里
吉 村 誠

要旨

本報告では平成 22 年度学生自主活動ルームにおけるおもしろプロジェクトをはじめとした学生のキャリア形成につながる活動支援の報告を行う。特に、平成 22 年度に様々な学生のニーズに応えるために導入した新たな試みについて、実践報告を行う。さらに、各活動を通して明らかになった学生の活動の現状および成果、今後の課題を整理する。

キーワード

学生支援, 自主活動, ボランティア活動, キャリア形成

1 はじめに

グローバリズム化する社会において、学生には自ら考え行動する力が求められている。経済産業省の指針においても 3 つの能力である「前に踏み出す力」、「考え抜く能力」、「チームで働く能力」などから構成される社会人基礎力（経済産業省）が求められる。また、高等教育において身につける能力として、「社会的自立」や「職業的自立」などが挙げられる（文部科学省）。それを受け、各学部・各部署において学生のキャリア形成の支援や、大学全体として大学教育機構等での学生自身が自ら考え、活動できる社会的自立のできる能力の育成が望まれると考えられる。学生自主活動ルームでは、おもしろプロジェクトをはじめとした学生の社会的自立を目指した様々な活動の支援を行っている。

本報告では、平成 22 年度における学生自主活動ルームの現状と今後の展望について述べる。

2 学生自主活動ルームの概要

学生自主活動ルームとは、学生の自主的な活動の支援・サポートを行う機関として、2006 年に設立された。山口大学における自主活動ルームは、『自主活動とは、その活動を通して学生の自主性や創造性を培われるような、無報酬の課外活動全般を意味する。自主活動とは、自身の新たな側面を発見し、より見つけ、自身の個性として定着されていくことが可能な活動であると同時に、その活動の改善案などの新たな方策を自らも模索し、実行できる場でなければならない。』と定義付けている。

具体的な業務は、おもしろプロジェクトの相談と受付と、学生の自主的な活動への相談・支援を行っている。ボランティアに関しては、学内外からのボランティア情報の掲示・開示を行っている。それを受け、学生が興味関心を持ち、相談に来るケースや、やってみたい活動やボランティアなどを探すのを

表 1 相談件数

月	学生	教職員	外部	合計
4月	109	8	13	130
5月	103	13	29	145
6月	141	9	14	164
7月	145	3	10	158
8月	123	17	21	161
9月	96	19	13	128
10月	280	9	9	298
11月	258	25	10	293
12月	271	13	23	307
合計	1526	116	142	1784

目的として来室するケースが見られる。

学生自主活動ルームにおいて相談を受け付け、実際に学生がボランティアに参加する場合は、相手先のボランティア担当者との連絡や打ち合わせを行うとともに、学生へのボランティア参加に関する配慮や注意事項を指導している。さらに、ボランティア保険への加入を指導している。

近年、学生の活動は学内だけにとどまらず、地域の人などの学外との連携を持つことも多い。その調整役としての学生たちの活動がより円滑にかつ、充実したものになるように調整なども行っている。

また、目的意識をもち、やりたいことを考えている学生ばかりではなく、ボランティア活動などへの活動意識が高いが、何をやっていいかわからない学生に対しては、学生の状況や周辺環境を情報提供を行い、一緒に活動の方向性などを探す相談業務を行っている。平成 22 年度は、教育実践学アプローチにより学生の発想力や想像力、知的好奇心を持たせるような環境整備や体制の取り組みを積極的に行った。

2010 年 4 月から 12 月末日における学生の利用者数の状況を表 1 に示す。夏休み期間などの長期休暇の際には利用者数が減るが、学期はじめにおいては、新規での相談件数の増加が見られた。さらに今年度は、就職活動を意識したボランティア活動の希望をする学生やキャリア形成全般に関する相談件数も増加傾向が見られる。

3 学生自主活動ルームにおける学生の活動

学生自主活動ルームは学生の自主的な活動を支援・サポート活動を大きな目的としている。

学生の活動はさまざまであるが、平成 22 年度に学生自主活動ルームにおいて学生が主体的に関わり、参加したものの一例を表 2 に示す。

今年度の新たな試みとして、ボランティア参加前にボランティア受け入れ機関と共催で学習会・研修会を行った。特に、対人的な活動を含むボランティアに際して、特別支援教育や教育心理学の視点から学習することによ

表 2 学生の参加した活動の一例

ボーイスカウトのミニジャンボリーにブース出展
山口県主催「ものづくりフェスタ2010」に科学実験での参加
山口市「放課後児童クラブ(学童保育)」へのボランティア参加
子育て母親の会との勉強会
子育てサークルとの共同プロジェクトの実践
宇部市教育委員会主催「ボランティアカレッジ」への参加
県内のNPO法人の活動へのボランティア参加
市内の各NPO法人の活動へのボランティア参加
山口市内の各地区との行事への企画立案
山口市内の各地区の行事へのボランティア参加
山口市中央図書館主催の読み聞かせボランティアへの参加

り, 効果的な活動支援が行えたと考えられる。

勉強会には多くの学生が参加し, 事前に学ぶことができたことで, 活動への理解が深まり, より充実した活動が行えたと考えられる。また, 担当者から直接話を聞いたことで, 学生の不安などを解消できたと思われる。学習会・研修会の様子図 1, 2 に示す。



図 1 勉強会の様子 1



図 2 勉強会の様子 2

科学技術分野に興味のある学生が主体的に関わった活動の 1 つとして, 山口県主催の「ものづくりフェスタ 2010」が挙げられる。学内の教職員の助言を受けながら, 企画立案から学生自身で行い, 個性的な実験や実験装置の開発を行った。事前に学生自主活動ルームで予備実験などを行ったことで, 他の学生たち動機付け, さらには知的好奇心を高めたと考えられる。予備実験の様子を図 3 に示す。



図 3 予備実験の様子



図 5 交流会の様子

国際理解分野に興味のある学生が主体的に関わった活動の1つとして、大学と連携関係をとっているワットポー小学校(カンボジア)からの視察団と一般学生交流の場の企画を行い、成果を挙げた。学生の作成したチラシと当日の様子を図4, 5に示す。

環境分野に興味のある学生が主体的に関わっている活動の1つとして、学内の自転車問題を解決するために、教職員と共同でアンケートや、実態調査などプロジェクトを推進している。

また現在、平成23年度に向け、新1年生を対象にしたプロジェクトや学内での活動、さらには学外の地域の人と共同で行うプロジェクトなどの企画立案を行っている。

学生の活動を支援するだけでなく、学生自主活動ルーム内では学生の興味関心を高めるために学内の教職員の協力のもと、科学実験の展示、植物栽培、どんぐりのホームステイ(山口県事業)の受け入れ、学生のコメント欄の掲示、学生の活動新聞などを行った。その成果物を図6, 7, 8に示す。

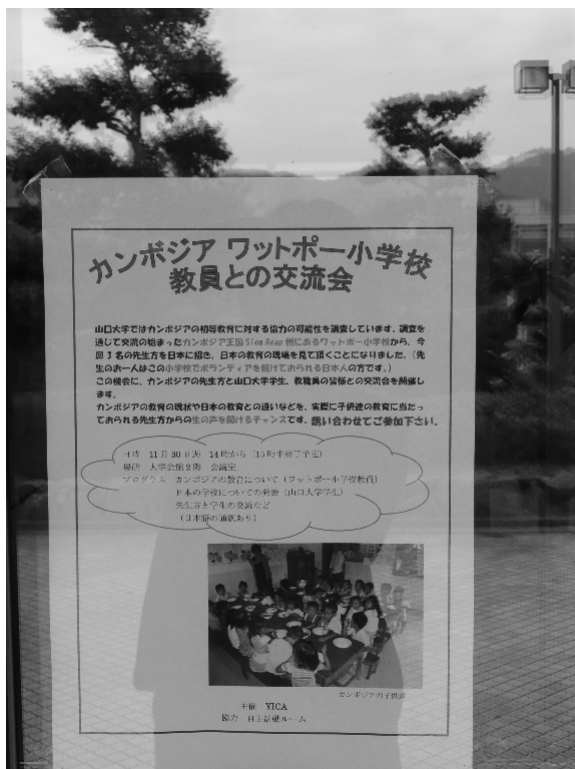


図 4 交流会の案内

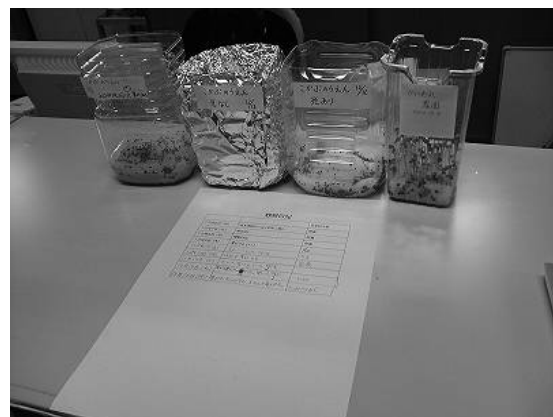


図 6 植物の栽培



図7 植物の栽培



図9 「国際な昼休み」の様子

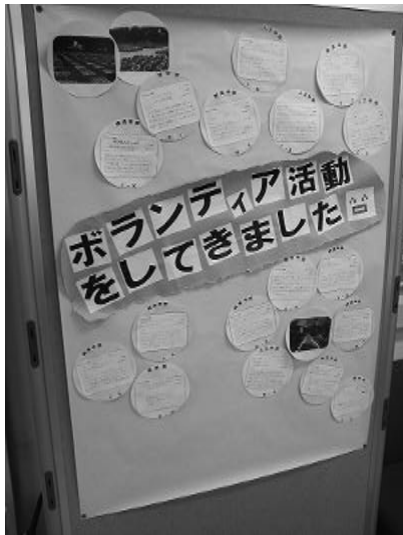


図8 学生自主活動ルーム内の掲示物



図10 「国際の昼休み」のプレゼンの様子

また、学生の相談内容に「国際」に関する相談件数が増加傾向にあることを受け、学生自主活動ルームで国際に関する勉強会を行った。その結果、留学や国際活動の協力者として10名の学生の協力が得られた。日程は12月中旬の3日間に12時から12時45分お昼休みに行った。当日の様子を図9, 10に示す。プレゼンターとして毎回の5, 6人が自分の体験・経験談を話した。参加者がのべ35人であった。参加した学生たちからは、経験者から直接話を聞け、有意義であったとの声が聞かれた。さらに開催終了後も、学生や教職員からの問い合わせが見られ、学内の専門部署や専門家への紹介を行った。

4 学生による学生サポート

学生が社会的自立を目指した社会的な能力の獲得のために、ボランティア経験が豊富で、さらに学内外での活動を積極に行っている学生5人に「学生サポート」として、相談件数が多い日の相談学生へのサポートや、学生自主活動ルームでの掲示物への提案などを行っている。学生による学生サポーターの成果と課題を次に示す。

4.1 成果

以前より学生自主活動ルームを頻繁に利用し、学生自主活動ルームの趣旨を理解し、コミュニケーション能力が高く、人と関わる活動に積極的に参加できる学生5名にサポータ

ーを依頼した。サポーターは自分の空いた都合の良い時間を利用し、来室した学生への声かけや情報提供などのサポートに当たっている。サポーターには活動中は名札を着用し、初めての来室者にも学生サポーターの存在が分かりやすいようにしている。さらに、活動したサポーターの学生には活動時間と活動の内容、感想を毎回記入している。

サポーターの学生たちは、はじめは声をかけることに戸惑いやタイミングなどに不安だったようであるが、数回活動していくうちに、学生に自ら声をかけるなど、積極的に関わる様子が見られた。学生サポートの様子を図 11 に示す。



図 11 学生サポート

来室した学生も学生同士で話をする中で、ボランティア活動や自主的な活動の相談だけではなく、大学生生活の悩みなどを話し合っている様子が見られた。学生目線での学び合いの環境が整い、支援される学生だけでなく、支援する学生の社会性の獲得や、より高度な関わる力が身に付けることができたと考えられる。

4.2 課題

学生の活動をサポートする観点より、サポーターとなる学生はコミュニケーション能力、傾聴姿勢、状況判断能力、ファシリテーション能力など求められると考えられる。今後は

これらの能力の育成のために研修会などを企画し、学生一人ひとりがそれぞれの能力や自己教育力の獲得を支援することが考えられる。

また、学生よりサポーターとして活動を行いたいという要望が聞かれ、来年度に向けて、サポーターになるための研修などの学びの場としての環境の構築を行いたいと思う。

5 今後の課題

今後の課題としては、山口県、山口市をはじめとした関係諸機関との連携を強め、学生たちがより地域を知るための環境作りを進めていく。また、学生のニーズを把握し、学生たちの活躍できる場や機会の提供を積極的に行っていきたいと思う。さらに、学外との連携だけでなく就職支援センターや留学支援センターなどの学内の他の教育機関と連携を目指し、情報交換を行い、学生たちの求める支援を的確に把握・理解することで、より効果的な学生の支援活動につなげていきたいと考えている。

また、平成 22 年度において試験的にはじめた独自性のある学生サポートの推進を行い、学生によるサポート支援活動の体制の構築を進めるとともに、サポート体制を通じて学生同士のネットワーク作りや学生が主体性を持つ活動への機会の提案を積極的に行っていきたい。

【参考文献】

経済産業省 HP
文部科学省 HP